

学校研究

1 研究主題

主体的に考え、学び合う子どもの育成

2 主題について

本校は、学校目標「勉強だいすき、かしこい子ども」の具現化を図るため、「主体的に考え、学び合う子どもの育成」というテーマで、教科を算数に絞り研究を進めてきて4年目になる。一昨年度は町研修所の委嘱を受け、「課題を解決するための手立ての工夫」「考えを深めるための交流の工夫」の2つの視点を掲げ、授業実践を発表し、昨年度も同じ視点をもって研究を行った。

昨年度までの研究をしたことで、児童に次のような姿が見られた。

- 「考えてみたい」「自分にもできそう」という知的好奇心が表れた姿
- 既習事項の確認により、見通しを持って自力解決をしようとする姿
- 図や絵、式、言葉等で自分の考えを表現しようとする姿
- 話し合いの手順やねらいを示すことにより、スムーズに考えを出し合う姿

一方、研究を進める中で次のような課題も見られた。

- 学力や語彙の理解の差によるつまずき
- 論理的な思考の経験不足
- 「なぜそう思うのか。」「どうしてそう考えたのか。」がわかるように説明する表現力の未熟さ
- 深める話し合いの不十分さ
- 児童がわかったことを自分で（自分たちで）まとめる経験の不足

そこでこれらの課題を克服するために有効な手立てを考えながら、自分で主体的に学習に取り組み、自分たちで友達とかかわり合う中で考えを深めていくことのできる子どもを育成したいと考える。研究を進めていく視点として、次の3つについて取り組んでいく。

- (1) 学びの土台をそろえ、児童の実態に応じた高まりを生む課題設定をする
→児童のつまずきや困り感を予想する。
見取りと達成状況を把握し、基礎・基本の確実な定着をめざす。
- (2) 単元全体を見通した授業づくり
→指導と評価の一体化を意識していく。
- (3) 一人一人の実態を把握した適切な支援
→気持ちや考えを表出できる「温かな人間関係づくりの深化」をめざす。

【研究におけることばの定義】

- 「主体的に考え」とは・・・単元・題材と出会い、問いや気づきを持ち、見通しを持って課題に取り組もうとする
直面している問題を自分事として捉え、自力解決する
学ぶことよさを実感し、次への意欲につなげていく
- 「学び合う」とは・・・何をねらった学び合いかを自覚し、自力で解決できなかったことを聞いて解決したり、相手の考えを理解しそれを受けて返したりしながら、互いの共通点や相違点を話し合ったりする
- 「基礎・基本」とは・・・基礎的な知識の習得にとどまらず、社会において生きていくために求められる思考能力・コミュニケーション能力

3 めざす子ども像

(1) 主体的に考え、進んで表現しようとする子ども

- ・自ら「問い」を持ち、見通し（結果と方法）を持って課題に取り組む。
- ・自力解決する過程で、数学的用語・記号を用いたり、具体物を操作したり、図や式にかいたりして、粘り強く自分の考えを表現する。

(2) 対話を通して、自分の考えを深めようとする子ども

- ・相手に分かるように、簡潔・明瞭・的確に説明する。
- ・互いのよさを見つけて伝え合ったり、いろいろな考えを比較し、共通点や相違点をもとに話し合ったりする。
- ・分からないところを伝えることができ、それを助け合う。
- ・対話の中で、答えを導き出したり、考えを修正したり、よりよい考えに気づいたりする。

4 研究の視点

(1) 主体的に考え、進んで表現しようとする子どもの育成（個の学び）

○学びの土台をそろえ、児童の実態に応じた必要感のある課題設定の工夫

- ・指導と評価の一体化を意識した単元を見通した授業づくり
- ・レディネステスト等を活用した児童の実態把握
- ・前時までとの違いや、児童の振り返りを活用した課題設定

○見通しの持たせ方の工夫

- ・課題の解決に向け、見通しを立てて取り組もうとする意識の育成とそのための準備
- ・児童のつまずきや困り感を予想し、児童が考えるための有効な手がかりや効果的な発問・指示の準備
- ・見通しの持てない児童への支援

○自分の考えを表現する方法の工夫

- ・有効な数学的活動や表現の方法の吟味（式、図、ことばで表現）
- ・考えを表出できない児童への支援（音声や記述、ヒントカードやコーナーなど）

(2) 対話を通して、自らの考えを深めようとする子どもの育成（集団の学び）

○交流のねらいの明確化・焦点化 **共感的人間関係**

- ・交流のねらいの設定
(この交流を通して児童がどんな姿でどのようになれば良いのか。
気づかせたい「共通点」や「相違点」・「疑問」、「間違いの検討」「修正」「よりよい考え」「考えのよさ」等)
- ・児童に使わせたい言葉、キーワードの設定
- ・思考をゆさぶる主発問と、主体的・協働的な思考に発展させる補助発問の吟味

○交流を生かし、確かなものにする場の設定 **自己存在感**

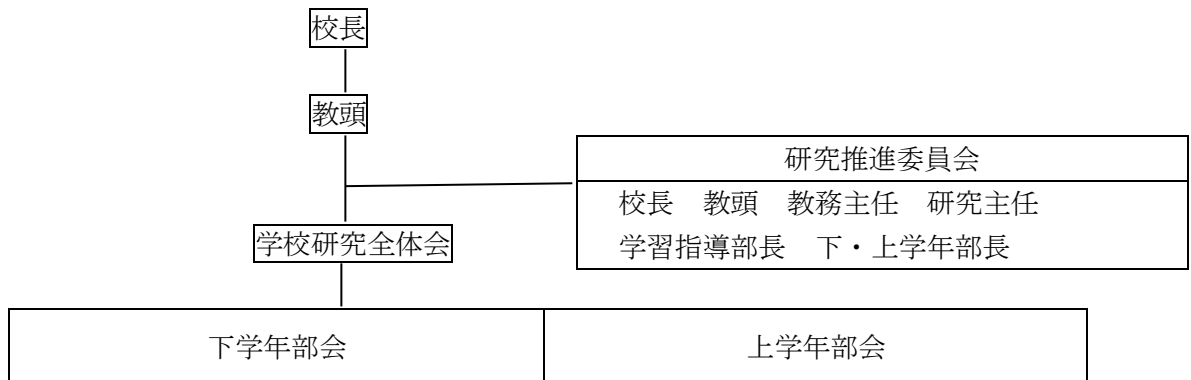
- ・本時の課題に対して、児童の言葉から作り上げる「まとめ」
- ・評価の観点にあった適用問題の吟味
- ・学びの流れや変容がわかる「ふり返し」や、次時の学習につなげる「ふり返し」

5 研究方法

- ・授業研究を中核にし、研究についての共通理解を図りながら進める。
- ・積み上げを図るために、学級1回算数の授業研究を行う。
- ・参考資料や参考文献を紹介し合ったり、先進校の研修に積極的に参加したりする。
- ・事前研は、「下学年部会」と「上学年部会」に分かれて行う。
事後研は、ワークショップ型の話し合いを持ち、共有化を図る。
- ・研究の共有と積み上げを図るために、研究主任が「成果と課題」をまとめ、研究だよりを全員に配付し、研究の共有を図る。

6 研究計画

(1) 研究の組織



(2) 提案授業の日程

月 日		内 容
4月13日(木)	研究推進委員会	研究計画(研究主題、内容、組織、計画等)の検討
4月19日(水)	全体会・部会研	〈校内研①〉研究計画提案、役割分担
5月17日(水)	事前研①	2年
6月13日(金)	授業研①上下	4年1組
6月14日(水)	事前研②	3年1組
6月28日(水)	授業研②上下	6年
7月 5日(水)	部会研	〈校内研⑥〉1学期の反省と2学期に向けて
9月20日(水)	事前研③	なかよし
10月11日(水)	授業研③上下	わかば
10月25日(水)	事前研④	1年
11月 8日(水)	授業研④上下	5年1組
11月29日(水)	事前研⑤	3年2組
12月 6日(水)	授業研⑤上下	5年2組
12月	部会研	研究の成果と課題、今年度の反省と来年度に向けて
1月	職員会議	来年度に向けて

荒砥小学校がめざす算数科授業のイメージ

	めざす子どもの姿	教師の働きかけ	思考を促す発問
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問いや気づき 「あれっ」「なんで」 ・ 自分事として捉える 「やってみたい」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの子どものふり返りを活用 ・ 単元・題材との出会わせ方の工夫 ・ 子どもの問いや気づきを引き出す ・ 絵、図による視覚化(イメージ化) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前の学習と違う所はどこですか。
見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・ めざすゴールをイメージする 「こうやったら解けるかな」 ・ 「今まで学習したことが使えそうだ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の問いを生かしたためあての選定 ・ 見通しを持ち、めざすゴール(評価規準)をイメージさせる ・ 既習の知識を活用する場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どんな方法でできそうですか。 ○ 何をもとにして考えればいいでしょうか。 ○ わかっていることを使ってみましょう。
自力解決	<p>自己決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的活動(図・式・表・絵・具体的操作など) ・ 1つ出来たら別の方法 ・ 「もっと良い方法や他の方法はないかな。」 ・ 発表準備 ・ 「自分の考えを友達にわかりやすく説明するには、どんな順序でどのように説明すればよいかな」 ・ ミニティーチャー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で課題に向き合い考える時間の設定 ・ 考えが進まない子どもへの手立て ・ 1つができたなら、別の方法で考えさせる。 ・ 子どもを見取り学び合いにつなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵や図に表せないかな。 ○ 式に表せないかな。 ○ ここまでいいよ。ここからはどう考えたの。 ○ 自分の考えをみんなに説明できるように書いてみよう。 ○ 他のやり方はないか考えてみよう。
学び合い・価値の共有化	<p>共感的人間関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えの根拠を示して発表する。 ・ わからない時は、積極的に聞く ・ 「～はどういうことですか。」 ・ 「どうしてそう考えたの」 ・ 友達の考えと比べて聞き、違いや共通点、よさに気づき、伝える ・ 「～さんの考えを聞いて…とわかりました」 ・ 「～さんの考えがよいと思います。わけは」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを表現する機会を保障する ・ 何をねらった学び合いか目的を明確にする(数学的なよさに気づかせるなど) ・ 学びの目的に合った場の設定や工夫 ・ 深い学びにつながる発問の工夫 ・ 多様な考えをつなげたり関連づけたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達同士の考えを比べてみましょう。似ている所はないですか。 ○ もっとわかりやすく表せないかな。 ○ いつでも使えるやり方はどれですか。
まとめ・習熟	<ul style="list-style-type: none"> ・ めあてについて自分の言葉でまとめる ・ よさを生かして、問題を解く ・ 習熟・応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ めあてと正対してまとめさせる ・ よさを使って、練習問題を解かせる ・ 定着・状況の的確な把握と必要に応じた手立ての工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○ わかりやすい方法で解いてみましょう。
振り返り	<p>自己存在感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びの過程を振り返り、新たな問いを見いだす ・ 思考の変容 ・ 「ほくは、～と考えが変わった」 ・ 「わたしは、～と改めて強く思った」 ・ 「わたしは、～という見方が広がった」など ・ 自分の成長 ・ 「わたしは～できるようになった」 ・ 「ほくは、～を友達にわかってもらえた」 ・ 「ほくは、～ということに気付いた」など ・ 学ぶことのよさ ・ 次時への意欲 ・ 「この次はこんな問題をやってみよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学びの過程を振り返り、新たな問いを持たせる ・ 思考の変容を自覚させる ・ 自分の成長を感じさせる ・ 学びのよさを自覚させる 	